

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙 4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0872100839		
法人名	医療法人社団ハート		
事業所名	グループホーム きんもくせい		
所在地	茨城県ひたちなか市高場1673-34 (電話) 029-270-0101		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918	茨城県総合福祉会館内	
訪問調査日	平成21年2月13日	評価確定日	平成21年6月12日

【情報提供票より】 (平成21年1月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 (100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,333 円		

(4) 利用者の概要(平成21年1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護 1	7	要介護 2	7
要介護 3	1	要介護 4	2
要介護 5		要支援 2	1
年齢	平均 86 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハートクリニック松本, ㈱日立製作所水戸総合病院, 三友歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆっくり、ゆったり、心地よく一人ひとりに寄り添う介護」を理念とし、その実践のため各ユニットで「望みの会」や「仲よし会」をつくり、毎月1回利用者同士で交流している。
職員は会話のなかから一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、その人らしく暮らせるよう支援している。
午前中は積極的にホーム周辺の散歩を行い、下肢筋力低下予防や気分転換を図っている。
敷地内に法人のクリニックがあり、24時間医師と連携が図れる体制を整備しており、急変時にも速やかに対応できるよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題であった同業者との交流は、認知症高齢者グループホーム協議会活動や研修会などに参加しているが主に運営者や管理者が参加しているので、今後は職員も積極的に参加し交流を通して更なるサービスの質の向上に活かすことを期待する。 災害対策は、毎月定期的に日中や夜間を想定して避難訓練を実施するとともに年2回消防署の指導を受け、総合避難訓練を実施している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価はケアに関わる項目を職場リーダーが中心に職員で話し合い、管理者が作成している。 外部評価についても全体会議で課題を話し合っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議でホームの状況を説明するとともに積極的な意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。 会議の議事録を利用者の家族に送付している。 地域包括支援センターや市の介護保険担当者と連携を図っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時に話し合い、要望や苦情を運営に活かすよう努めている。 玄関に意見箱を設置するとともに重要事項説明書に事業所の苦情相談等受付窓口や担当者を明記しているが、今後は第三者機関の苦情相談等受付窓口も明記するとともに、契約時に利用者や家族等に説明することを期待する。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域行事の夏祭りや運動会に参加するなど、できることから交流の場を増やすよう努めている。 利用者は散歩やホーム周辺の掃除の時に地域の人々と挨拶を交わすなど、日々交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援しているが、「ゆっくり、ゆったり、心地よく一人ひとりに寄り添う介護」という事業所の理念は、地域密着型サービスとしての果たすべき役割を反映した内容には至っていない。	○	これまでの理念を見直し、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容になるよう職員で話し合い作成することを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々理念について話し合うとともに全職員で共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事の夏祭りや運動会に参加するなど、できることから交流の場を増やすよう努めている。 利用者は散歩やホーム周辺の掃除の時に地域の人々と挨拶を交わすなど日々交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はケアに関わる項目を職場リーダーが中心に職員で話し合い、管理者が作成している。 外部評価についても全体会議で課題を話し合っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホームの状況を説明するとともに積極的な意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。 会議の議事録を利用者の家族に送付している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや市の介護保険担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「きんもくせい便り」を年4回発行し、利用者の日々の様子や職員の異動などを家族に報告している。 金銭管理は、利用者ごとにレシートをノートに綴り、家族の来訪時に確認を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に話し合い、要望や苦情を運営に活かすよう努めている。 玄関に意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に事業所の苦情相談等受付窓口や担当者を明記しているが、第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するまでには至っていない。	○	重要事項説明書に第三者機関の苦情相談等受付窓口を明記するとともに、契約時に利用者や家族等に説明することを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの関係の大切さを認識しており、職員の離職を最小限に抑えるため仕事に夢を持ち、喜びを感じられる職場の環境づくりや待遇改善に努めている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員の段階に応じた年間研修計画を作成し、積極的に参加を促している。研修結果を会議で報告するとともに職員で内容を共有している。 内部研修は研修委員を中心に3ヶ月に1回のペースで勉強会を実施し、職員のレベルアップに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協議会に加入するとともに研修会や協議会活動で交流しているが、主に運営者や管理者が参加している。	○	今後は運営者や管理者だけでなく、職員も積極的に参加するとともに交流や研修を通して更なるサービスの質の向上に活かすことを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験宿泊などで利用者や家族が納得して利用が開始できるよう配慮している。利用開始の最初の食事は、家族と一緒にとるなどでホームの雰囲気徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや野菜の作り方、裁縫を教えてもらうなど利用者と支えあって過ごす関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の話し合いの場である「望みの会」や「仲良し会」をつくり、意見や希望を汲みあげる工夫をしている。 職員は日頃の会話の中から利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握し利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族、関係者、職員の意見を取り入れ、利用者の要望にそった介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、利用者の状態に変化が生じた場合には状況に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内にクリニックを併設しており、24時間医師と連携が図れる体制になっている。 利用者の希望にそって訪問美容サービスの支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用者の希望にそったかかりつけ医への受診など、複数の医療機関と連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期ケアのあり方についての方針を全職員で話し合うまでには至っていない。 重要事項説明書に方針の記載がなく家族に説明するまでには至っていない。	○	重度化や終末期ケアの方針を利用者や家族、職員、かかりつけ医と話し合うとともに対応マニュアルの作成に取り組むことを期待する。 重要事項説明書に重度化や終末期の対応方針を記載するとともに家族等に説明することも期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は言葉かけや対応など、常に利用者の誇りやプライバシーに配慮している。 記録もイニシャルで表記し、事務所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	曜日ごとにレクリエーションが決まっているが、利用者の希望を尊重し無理強いしないようにするとともに、ドライブや散歩など希望にそって支援するほか、利用者が主体となってその人らしい生活ができるよう場面づくりを行うなど柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月曜日から金曜日までの食事は管理栄養士の献立にそって職員が調理している。 土曜日と日曜日は利用者と職員で献立を考え買物に行き、利用者一人ひとりの能力に応じて職員と一緒に調理や配膳、後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の決まりはなく、利用者の希望にそって入浴ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの趣味や興味、こだわりを生活の中に取り入れるとともに職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握し、経験を活かして野菜作りや洗濯物干し、洗濯物たたみ、食事の準備を手伝ってもらうなど、利用者の能力にあわせた役割や楽しみごとに取り組めるよう場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は買い物や散歩に出かけている。 週末はドライブに出かけたり、誕生日には利用者の希望にそった外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関や居室は施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者と共に毎月定期的に日中や夜間を想定して避難訓練を実施している。 年2回消防署の指導を受け総合避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人が経営する施設の管理栄養士が献立を作り栄養管理をしている。 利用者一人ひとりが必要な食事や水分が摂れるよう支援するとともに、食事や水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真や利用者の作品、玄関や食堂には花を飾るなど季節が感じられるよう配慮している。 食堂兼台所は配膳台を設置し職員と利用者が食事の準備をしながら会話を楽めるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビなどを持ち込み、居心地良く安心して生活できる環境になっている。 居室のドアには一人ひとり好みの暖簾をかけている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。